쮐

植

物

金

テ居り薬効ニ於テハ旣ニ試驗濟デ今又化學的ニモやらっぱ根ト同様ノモノデアルコトガ vulinト殆ド 同 一ト言ッテモ 好 イ位ニ化學的親近ノ物質デアル、 牽牛子ハ既ニ古クカラ漢方デ下劑 證明サレタノデア ŀ **≥**⁄ 用 Ł ラ jν 力

ラ年ニ三萬圓內外ノ輸入アルやらっぱ根ヲ排シテ國産愛用ヲ實行シ度イモノデアル

ひるがほ科ニハ瀉下成分ガ可ナリ廣ク 分布シテ居ル、卽チ上記あさがほ、やらっぱノ他! キシコニ産スル

moea orizabensis Ledanois コーカサス産ノ Convoluvulus Scammonia Linn. 臺灣ニ産スルやつであさがほ Ipo-最後ニ臺灣デ廣ク食用ニ供セラレ栽培セラレルひるがほ科ノ蔬菜えんさい (蕹菜) Ipomoea reptans Poir. いもヲ生食スルト下痢シ易イノモ恐ラク少量ノ瀉下成分ヲ含有スル爲デ無カラウカ moea digitata Linn. のあさがほ I. indica Merril たいわんあさがほ I. cairica Sweer 等悉ク然リ、さつま 寫

〇臺灣植物(五)うらじろまき(昭和六年五月記)

眞ヲ序ニ御目ニカケル、葉ハ柔軟デほられんさらノ如ク風味モ甚ダヨロシ

才

Y. Yamamoto, Formosan Plants (V). Amentotaxus argotaenia (Hance) Pilger

理學士山本

三五七頁ニ Podocarpus (Eupodocarpus) argotaenia Hance トシテ發表シタノデアル、ソノ材料 末初メテ支那ノ廣東省 Lofau-shan ニ發見シ、次イデ Hance 氏ハ Journal of Botany 誌上第廿一卷(一八八三) ハ單一ナル小枝

うらじろまき (Amentotaxus argotaenia (Hance) Pilger) ハ E. Faber 氏、一八八二年九月

歷史的考察

phylla ャ Podocarpus chinensisト比較シテ大イニ異ッタモノデアッタノデコ ヽニまき屬ノ モノデアル、私ハ只莖葉ノミノ材料デハ Podocarpus ニ編入セラルトモ無理カラヌコトト 過ギナイガ葉ノ裏面ニハ二本ノ太イ白線(氣孔ノ列) ガアッテ極メテ美事ナモノデアッテ Podocarpus macro-思ハレル、ソノ後別ニ 新種トシテ發表シタ

次 記

載ニョッテ初メテ我ガ臺灣ノうらじろまさハ全ク支那ト

同一



ク山中腹海拔四千尺ノうらじろまきノ雄株

(原 圖)

ann

附記シテ Podocarpus ニスレ

ルナラ

ジク Journ. Bot. 誌上第廿三卷 (一八八五)

學名ヲ發表シタ、コノ標本ハ前者ノモ

異ナリ 雄花ヲ完全ニ有シ 從ッテ

Amen-

更 非

ャ Anthera ノ記載ガシテアル、氏

八七頁: Podocarpus insignis Hemsley

HEMSLEY 氏

Ħ

香港

タタイモ山デ

採集シタ材料ニョッテ同 WESTLAND 氏ガ

常二

著明ナル種類デアル、

恐ラク異

入ルベキデアル

トシ此ニ新

ナ ル属

の人成立

、イデー九○三年松柏科植物ノ世界的分類ノ大魁 PIIGER 氏ハ ENGLER, Pflanzenreich, テ之レヲ Cephalotaxus ニ属セシメテ C. argotaenia (Hance) Pinger ト改名シタ、 デアル 種デアルコトヲ認メルコトガ出來ル 然シ吾々ハ Hemsley 氏ノ P. insignis ソシテ氏 コ ノデアル 雌花

P. argotaenia ト全然一致セルヲ發見シ、

自己ノ 命名セル

P. insignis

キヲ暗示シテ居ル、

然ルニー九〇二

车

Cephalotaxusニ屬セシムベ 不明ナル今日 Podocarpus ニスレルハ大イニ疑問ナリトシ花軸ニ着ケル雄花トソノ葯嚢ノ キデアル ١ 尙ホ氏ハ 雄花ノ形態カラ = ノ属ニ變へ タケ 形狀カラ見 ١,٠ モ 更二 雌花

臺 植 物 金

ナ

ラ

バ 或

他

屬

=

ス jν ベ

V ズ **j**-云 ۲

氏 Æ 亦新屬

ナ jν

ヲ

暗

示

୬

テ居

ソ

後 タ

 W_{ILSON}

氏

灌 رر jν

木デ デ

卽チ

Rehder et

Wilson-Taxaceae in Plantae Wilsonianae, IV. (1914) ノ宍真:

ノ約三百米ノ

山地二

採集シ

ガコ 米國

一米位

一報告セ

jν

モ

=

再ビ

支那 アッタ、

=

於テ然シ場所ヲ

異ニ + 7

≥⁄ モ 知

一九〇七年五月西部湖北省

ノ通リ遂ニ

ENGLER-Botanische Jahrbücher, LIV. pp. 41-43.

金

リク山中腹海拔四千尺ノ うらじろまきノ雌株 (原 圖)

高

ヲ

ラ

ヌ 材料

ガ

葉腋

ニ不完全

ナ タ

ガ メ

ラ =

Æ

只一

個

卵 テ 新

屬ナリト

述ベテヲル、

雌花

1

不完全ナル

多クヲ述

ベ 就

第

ノ他西部四川省ノ一一〇〇米ノ高地ニモ分布シテヲルコトヲ記シテヲルヽ Amentotaxus ナル新屬ノ設立ヲナシタ、卽チ彼ハ雄花ノ構造ニョリ ノ彼ノ論文ニ於テコノ植物ノ精細 似セル 指 摘シ且ッ Cephalotaxus ニ近キ Taxoideae モ **尙他ノ諸點ニ於テ區別アル** Cephalotaxus + Torreya リ近 降ッテー九一六年 PILGER ナル 研究ニ基キ彼ノ豫言 = ŀ 氏 ヲ

pus カラ Cephalotaxus へ遂ニ Amentotaxus ヲ持 新屬ノ 成立トハナッタガ ソ ノ 造二就 生ズ ツデアラウト述べ 分類 如 jν 學 + = 更二 Ŀ コ ŀ ヲ記 ノうらじろまきハ 精細 位置 3/ テ テ = ナ 對 ヲ jν ヲ 觀察 尙 jν **≥**⁄ IJ ホ他ノ松柏 倘 層 ヲ ホ ・ナサン こノ確實! Podocar-コ 卵子 科 性

植

物

共ニソノ分類學上ノ位置

Ξ

就

テ

未

綱ノ Taxaceae, Pinaceae ノ雨科ヲ七科ニ分類シタ、卽チ前者ハ Taxaceae, Podocarpaceae, Cephalotaxaceae ノニ (1926)ニ於テ圣松柏科植物ノ大改變ヲ行ヒ、彼ノ Engr. u. Grrg—Syllabus der Pflanzenfam. (1924)中 Coniferae ダ將來ノ研究ニ待ツモノ多キヲ碊サレテ居タ、然ルニPrrger 氏ハEngrer—Natürl. Pflanzenfam. Aufl. 2, Bd. 13

以上ハうらじろまきニ對スル 研究ノ歴史的考察ノ槪略 デアルガ飜ッテ 我ガ臺灣ニ於ケル 調査ノ跡ヲ 見ル 科ニ(後者ハ省ク)分チ Amentotaxus ハ Cephalotaxus ト共ニ之ヲ Cephalotaxaceae ニ所屬セシメタノデアル Hexax 氏ハー八九三―四年ニ本島ノ旅行中、之レヲ 南部山地ニ初メテ 採集シ、一八九六年日本亞細亞會會誌



卯 ニ 國 ヌリリク警察官吏駐在所ニテ江田氏ト著者 (昭和二年六月七日撮影)

Journ. Bot. XXVI. 誌上五四七頁ニ之レガJourn. Bot. XXVI. 誌上五四七頁ニ之レガ上のrn. Bot. XXVI. 該上五四七頁ニ之レガルのrn. Bot. XXVI. 該上五四七頁ニ之レガ

テカッタノデアル、次イデ早田氏ハソノ著 宇田兩氏ハ Enumeratio Plantarum Formosanarum 三九九頁ニ Henry 氏ノ目錄ニョ リ臺灣植物ニ Podocarpus argotaenia Hance =Podocarpus insignis HemsLey トシテ發 表シタ、然シ我邦人デ實際採集シタモノハ 表シタ、然シ我邦人デ度際採集シタモノハ

臺灣植物(五

豪 灣 植 物 金

(68)(1927)共 氏 きナ 頁 自 四 リト 上ノ採集品ヲ以テ昭 1ラト 種子 テ他ノ Cephalotaxus ニナ ァ 集サ デ 车 ブ 畄 手 私 jν Ē 氏 發表サレ アッタ、 jν **≥**⁄ ノッタ、 來 こ入り v 7 ヺ 月私い牧野 和 質。 Cephalotuxaceae バ 氏 求 ŀ ノ發表シタ 許二送ラレテ私 故 15 タ 名 こうらじろいぬがやト 、主ト jν ア メ ガ 只雌花 テヰ 之レガ 恐ラク我邦 祉 テ 更 附 ソノ 後大正 ヲ臺東廳 ŊŸ 播種 jν ಕ タ サ 社ト , ν €⁄ y 间 v 氏邸ニ年賀ニ廻リタ the Flora of Formosa 和 テ ý ラ試 氏 タ Amentotaxus 無キ 材 ク社 元 即チなさト カ ヌ ャ 十三年 送ラレ 车 ラ東京ノ リリク社 ミラレ ノ研究ニ提供 十一月 比 Torreya + タメニ 較解 方面 タ 次 屬スル Amentotaxus argotaenia (Hance) 云フ方 剖 ガ 月カラ同 研 牧野 ィ ヲ經 (一九二六)私ハ一先ヅ原稿ヲマトメ ハ同一デモナケレバ又近似ノモノデモ ヲ PILGER argotaenia (Hance) 踏査 中間 究 デ ヲ 研究サ 富太郎 總督 モ Ŀ ル際御年 ノ端緒ト ラ大正十年三月(一九二) サ 成功シ (1916)ガ適當ナ名デアロウト 3/ ト比較シ パ v 氏ノ發表ニョリ以上ノ結果ヲ與 リブガイ(八里芒)山麓路上ニ 同 五. 府 タノデアル、 氏 ν 地方約三千尺ノ高所デ自生狀態ヲ實見 月ニ亙リ金平亮三氏並ニ田 七四 ナッタ歴史的材料デアロ 玉卜 ナカッ ノ許二送ラレ 殖産局ニ送ラレテ來 タ 大正十五年六月臺灣博 頁ニ ガ大同小異デ兩者ト シテ頂戴シ初 タサウデアル、同ジク十三年五月、 Pilger 阿罩霧 然ルニ ソノ鑑 言ッテヰ ナル支那産)臺東廳 コノモ メテ私ハ珍シ 產 定ヲ タノ 地 ヲ ゥ、 1 ナイ 私 jν 物 代安定氏ハ各~大武支廳 ハ非常ニ近似ノ屬デ 依 發見シ、 大 デ 加 ハ 學會會報 ア 泣 賴 PILGER ヲ以テ詳細ナ 是等 得ナ 支廳 最モ 報告 Suppl. Ic. Pl. サ w テ 屯 寧 ハコノ葉ヲ イうらじろまきノ ν 發 種子 ノト テ 形 下 1 コノ 表 材 V ・ヰタ 態 シ ŀ ₹⁄ 少 料 ねがやャかやニ 標 ン如 ア ソ 着 遺憾 1 本ノ €⁄ = 初 觀察シ 3 イタ デ モ 何 メテ雄花 十四年二月 種 相 ァ ァ デア V = 駐 名 部へ故 jν jν 在 Æ カ ĵν 莖葉 タ 'n 第 ナ 珍 所 5 = = ŋ 雄花 記 九 依 處 キ ŀ ŀ 載 _ 沂 材 賴 斷 田 四 = キサきナ ヲ = ガ 六年 然 ŀ 金平 面 接 代 繿 1 知 大 **≥**⁄ 枝 テ ヲ 3 Œ 3/ モ ŀ w 作 明 九 ヲ 氏 ソ =

臺 灣 植 物 金



第 四 圖 バリプライ山ヨリ持來リタルららじろまき雌株ノ枝(原圖)



第 Ŧī. うらじろまき (Amentotaxus argotaenia [HANCE] Pilger) ノ雄花 (昭和六年五月撮影 原屬)

圖版 葉) ノ鯱 、Cephalotaxus ヲ テハ略、 テ報告シ 卵子ノ デ 如葉腋 7 、其花序ヲ セ材 ナ IV **≥**⁄ ヲ デ 窺 テ モ ヲ 種 子 ガ 未 出熟

佐々木舜

ナル 六月私

モノデナカ ノ第三回

ゥ

目 U

植カ

物思

査ハレ

ノデアン

砌リ

爲 タ

3 IJ

雄

雌木ノ種子等ノ挿畫二枚、

並

加

海

拔 テ

 \equiv 雄

0

尺 集

並

花 タル

採集 IJ

テ

私

送

≥⁄ 0 採

テ

來 附近

タ

デ. 雌 力

私 雄

充

jν

ヲモ 附

ッテ

主ト

୬

テ

ENEL.

尺

=

花

ヲ

≥

同

ジ

四 花 r

月十

Ħ

IJ

大雄花

抵 直

テ ナ

五.

第 六 嗇 うらじろまき Amentotaxus argotaenia [HANCE] PILGER) ノ雌花 (昭和六年五月摄影 原圖)

PILGER氏ノConiferaeノ分類ニ基キ各科ノ

Pflanzenfam.

Aufl. 2, Bd. XIII. (1926)

徑 デ ヲ ソ テ タ 旣 依 = IJ タ 賴 目 ŋ IJ ν 的 糎 渦 ₹/ = ク 1] 勿論デ テ Щ ヲ 3 果サ 髙 置 ッ テ 海 社: サ テ 枯 才 拔 葉腋 ア 約 訪 ズ jν ₹/ タ 米 テ 二 , タ 內 只 其 歸 ガ 後 外 北 小 デ 個 昭 本 衼 3 尺 r 喬 和 Ø 六 卵子ヲ 木 懸ッ タ 高 年 性 月三日 其際私 所 テ 一月初 生ズ ヲ Æ 雄株 ルノ 時 B Ż デアッタ 訪 jν 雌株 ŋ 臺東 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙ ガ見ラレ又雌 途 ŋ Ē ク タ 社 時 Ш П IJ 駐 脈 ゥ \Rightarrow 本 植 ŀ ブ 在 タ|| 實 IJ 物 云 ガ 所 Æ イフ推 イ 調 地 IJ モ Щ 高 ク 査 闊 麓 駐 論 市 査 過 砌 ナ 棄 照 在 = IJ 私 愈 タ w 好 所 先 ガ 氏 再 k 確 種 江 F. 後 ۲ ハ 子 實 田 = 混 性 IJ 研 ハ 生 方 究 何 ブ Ŧ 3/ 加ヲ訪 ガイ 與 テ ŀ モ ヲ 同 Щ ラ ジ **≥** 未 jν 麓海拔約三五 テ V 孰 1 處 タ 少 Þ ヲ デ デ が時 ナ 見 小 初 力 デ ナ タ 期尚 ラ ザ 實 デ 早 ν 助

snxナリ 不當ナ ŀ ヲ試ミタ、 ハ 大イ jν = = ŀ 異 ッ ヲ 本學教 發見 **≥**⁄ ナ テ雌花 IJ **≥**⁄ 寍 = П 分離 ŀ 於テ Cephalota 同 科ニス 號 (Journ ヲ 士 jν ŀ 共

テ多 厚形

少少歪!

極

纟

テ短

丰

柄

ヲ有

ス

緣邊

ハ少シ

ク裏面

=

反卷

ス 三 ·シ

中肋

ハ表面

=

細

戸利

4

隆.

起

ス

jν

モ

裏

丽

著

×

Ξ

形 剛

=

3/

ナ

通

以テ何レ私ノ最後ノ續臺灣植物圖譜第五輯(近刊)ニ詳細 ceae ノ新科 ノ發表スベキ豫定ニナッタノデアル、 (April. 1931) = Cephalotaxaceae カラ分離シ = ノ報告的發表ニ續キ私ハ之レガ補充的 報告ス jν 積り デ ト Amentotaxus アル 屬 ヲ以 記載ト テ Amentotaxa-挿畫數

うらじろまき科 (Amentotaxaceae) ノ特

テノ歴史的ノ考察デア

以上へうらじろまき一名うらじろいぬがや Amentotaxus argoteania (Hance)

Pilger—Amentotaxaceae

就

才

新枝 雌雄異株、 = 縦列セ 下方部二三葉腋 ル鱗片ニョッテ包マ 雄花ハ葇荑花序ヲシテ前年ノ小枝ノ尖端又ハ同 ニ長梗ヲ以テ單立シ、 ル 雄花 ハ無數ニシ 卵子ハ卵形 テ花軸 ニシテ肉質杯狀體 上方 ラ所 々ニ群生 ノ 葉腋 3/ ノ上ニ直 · 五個 葯ハ二―八個ナリ 生 立シン ズ 雄花 上尖端 序ノ 二珠 雌花 基 部 孔開 本 车 ク 껠

曲 ッ 共二 ŋ テ 五對 小枝ニ大抵對生シ、 ラ / 小鱗片 = テ 全ク包マル、 平面ニ 開展ス、 胚へ直立、 葉ノ裏面ニハ二條ノ廣キ氣孔 子葉二、— 喬木又ハ灌木、 ノ白 葉ハ線狀披針形ニ 線アリテ鮮明ナリ **≥**⁄ テ 鎌狀ニ 屬 多

うらじろまき (A. テ直徑約三〇糎、 ルナリ、 長 プサ五 —七糎、 argotaenia 高サ大抵 幅〇、五一一、〇糎、 一〇米內外ナリ、 Pilger) 1 形態學的觀察、 先端漸尖形 葉、二縦列、 喬 木又 多クハ對生 テ最実端 ハ 半喬 木、 €/ 外觀 角質針狀 鎌狀 v Ø が 線狀披 実リ Ŕ = 針 似 基 形 タ 底 = IJ 部 ₹/ テ 樹 强 銳 幹

表面 テ 鮮明 デリ, 滑澤ニシ 且 、テ深緑色、 ッ 中 肋 並 ナルモ裏面ハ淡緑色ニシテ且ツ中肋ノ兩側ニ一本宛ノ太キ白色帶 緣邊 ノ淡色ノ帯線 ト殆ンド 同 幅ヲ以 のテ平行 ナル 五 縫 線 ヲ ナ ス 狀 1 縱 線 7 IJ テ 極

株、 雄花ハ淡緑黄色 葇荑花序ヲナシテ前年 小枝 ノ尖端ニニー 四、稀 五 叉 單 = 個 ヲ 生 ジ 叉 同 ジ 力

臺 灣 植 物 金 ŋ

ナ

ŋ

臺

轡

植

物

金

上面 卵子ハ 部ハ永存 元 ・長梗ヲ チ 外方 小 球 -≥⁄ 上 Ĺ 形 7 性ノ鱗片ヲ有シ、長サ二糎徑一糎ニシテ約 " 方 外皮ハ ラ軍立 五個 Ш 五 (直徑約 テ大キ <u>ب</u> jν ハ小サク(廣卵形長サ五粍、 ナリ 小鱗片 肉質初メ紅色ナルモ後紫色トナル **シ** 米粒狀ノ 五 小鱗片ニョッテ全ク包マ 腋 " 花ハ花軸ノ處々ニ集合シ殆ン = トコレニ楯形ニツケル 中程ノモ —二粍) <u>|</u> 葯ヲ着生ス、 個 ニシテ肉質盃狀ノ體ノ上ニ ノハ ヲ 生 圓形ニシ ズ、 雌花ハ本年ノ新枝 幅三―四粍)ソレ 穗 ル、鱗片、五對アリテ互ニ對生シ外方 短キ花絲トヨ 長サ テ (徑二粍)、 一、五糎ノ長梗ヲ以テ葉腋 、ド無柄 約 内皮ハ茶褐色ノ薄膜質 糎 ナリ、 (莖葉未ダ柔軟ナリ)ノ下方二三葉腋ニーー ョリ上部内方ノモ 座シ頂點中 基 ŋ 最内方ノモ 成リ、鱗片 部 雄蘂ハ稍 央ニ 应 .) Þ 縱 ント 珠 3 下面ニ花絲ヲ圍ミテニー八個、 圓 列 卵形 ノボド大キク廣橢圓狀披針 孔開 ŋ 形叉ハ半圓 セ 懸 jν (長サ 7 垂 膜 對ハ小舟狀(長サ三粍幅 種子 、五 粍幅 二 粍) 尚ホ 形叉ハ三角形 橢圓 尖端中央部 ヲ 以 形ニ テ **୬**⁄ 一、五糎 ナリ 形(長 · テ 下 ୬

うらじろまきノ分布

臺灣 ニテハ只支那南部 區雄州下 處 三六〇〇尺 = = 一分布 テハ臺東廳大武支廳下ノ チ ス 力 タン jν , ヲ見 亙 溪上流 Щ ニノミ分布シ IJ 地 jν 分布シテヲル 括シテヲ 一發見サ 高雄 ク 州 ナ ル丈ニ 下 ナ テ タ テヲ ヲ 方 ゥ ŋ ガ之レ 面 ŋ ルガ卽チ廣東省タ Щ 興味アル事實デアル jν 1 • 分布ハ Щ チ カ 力 Amentotaxus タ اادر Cephalotaxus ŋ 今度高布照 2 Щ ブ ガ イモ 如 オ キ中 山 、ト同 1 ブ ノ分布ト 好 ハ熱帯 Щ 央 如 氏 |時ニ分類學上又一考ニ値スル Щ キ ノ報 湖北省 脈 中 央山 略 E 西 斜 7 = ラヤ 面 脈 致シテ 3 西部及ビ四川省 IJ 1 東斜 瓦 テ 支那 IJ タル 明 面 力 ナ 海 = 中部 拔 jν ナ PILGER 大竹 ッ 1000-ノ西部海 タ デ 部及 高 Æ ァ 溪側 ガ F デ 拔 H r 74 = 約 00 產 本 jν 兩 0 外 **(**) 國 ヲ 尺

ハ先 ヅうらじろまきノ

歴史的考察ヲ

試

3

(2)

新科

ノ特徴並

=

種

形態學觀察ヲ述べ最後

ソ

碧波

ヲ距テ、緑翠

ノ孤島江ノ島ト相對シ更ニ遙ニ富嶽ヲ盟主トスル

間ニ望見シ得ル

湘南

鵠沼、

片瀨

ガ小田急電車支線ノ延設

=

伴

開

發 =

三班 ス

駿、

豆

相、

甲

連 Щ

展

望ヲ

擅

7

୬ `

島ノ噴煙、

真鶴岬ノ斗出ヲ指呼ノ

開發ヲ以テシ、

貴顯ノ 邸宅別莊ノ 造營相次グノ盛況ヲ.見ルニ至リ 今後更ニ一層殷ナルモ

問フ 粹客ハ多カラント 雖モ之ヲ弔フモ

ノハ往時ノ鵠沼、

片瀬ヲ低囘

スル吾

ノア

ラ Ŀ

ŀ

jν

= グ

「亡ど行ク」

トハ

何故ナリヤト

ceae i 分布 トニシタ、 タイト思ッテヰタガ已ニ第二項ニ記シタ記載デ自ラ明デモアリ、又紙面モ餘リナイノデ後ニ讓リ 今度ハ省クコ ġ 包含サル モ 記 只最後ニコノ科ハCephalotaxusヨリモ寧ロTaxusニ近ク從ッテ他ノ科ヲモ考慮スルナラバ或ハTaxa-**≥**⁄ テ ベキモ 來 タ ガ 尙 ノデアラウト 云フコトヲ附言シテ置 7 科 ŀ 他 科 ŀ 雌 花 雄花 = 就 キ各々比較シテ Amentotaxaceae 新 設 理 由 ŀ 3/

高 市兩氏ニ深厚ナル謝意ヲ表スルモノデアル (完)

最後ニ本調査ニ當リ少ナカラザル材料ト便宜ヲ賜ハリタル金平博

共

牧野博

士

佐々木

舜

氏並

=

臺東廳

江.

Ħ

〇亡ビ行ク湘南 /鵠沼片瀬ヲ弔フ

久 內 凊 孝

吾人ハ好ンデ奇説 外ニハアルマイ ヲ唱 ヘントス jν ノデハナイ、 タバ 過去 1 自然ノ、 人類 ノ魔手ニ黷サレ ザ ŋ シ鵠 沼 片瀨 ヲ

鵠沼、 知リ テ自然 レバ 片瀬ノ爲メ一言 昔日ニ | ノ征服者デアリ破壞者デアル文化人ニ接シタル今日 **弔辭ノ胸裏ニ湧出シ來ルヲ禁ジ得ザル** デアッタ、 ノデアル、嗚呼悲哉 ノ鵠沼、 好個 片瀬ヲ見ル ŀ キ吾人ハ亡ビ行ク自然 吾人ニ否、 植

想起ス 適地 デ アッタ、 一於ケル サレバみしかきぐさ、 鵠沼 マ片瀬 吾 1等同 むらさきみくかきぐさ、ほざきのみくかきぐさ、 好 1 好採集地 ノ濕砂原デアッタ、 いねせんぶり、

一行の湘南ノ鵠沼片瀬ヲ弔フ